

茶屋町画廊企画

# 田主誠の民族学博物館 ⑤三角形の記憶Ⅱ

2016年6月30日(木)～7月5日(火)

11:00～19:00 (最終日は16:00まで)

\*画像・イラスト等の保存・転載・無断利用はお断り致します\*



今回の展覧会は毎年、7月3日の故梅棹忠夫先生の命日を含む週で開催される『田主誠の民族学博物館 ⑤ 三角形の記憶Ⅱ』です。サブタイトルにも入っている通り昨年に引き続き三角形の記憶が題材になっています。

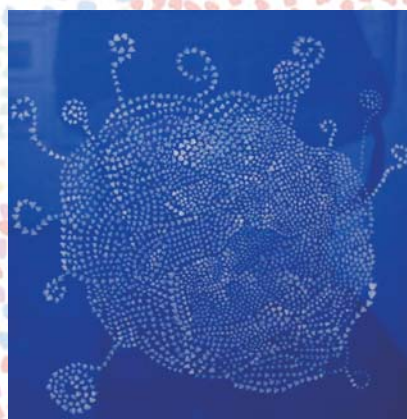
「三角形のシリーズ」は手書きの作品とシルクスクリーンの作品とに分かれています。シルクスクリーンの作品は数種類の版によって刷られ、一定のリズムで表された作品は色の濃淡や、数種類の色により様々な表情がでていますが、同じ版を使っていますが、位置を変えたり、違う色で刷ることにより無限のパリエーションがあるように思えます。この三角形はエッジがとても効いており、作家の感性の鋭さや、はっきりとした方向性、強さを感じられます。

手書きで描かれた三角形はキャンパス地に多彩な色で描かれています。面のすべてを三角形で埋めつくされている作品は、濃度の違う単色の図形の密度により波のように見えたり、空のようにみえたり、又はその中に動物が見えたりなど多くの見え方で捕らえられることが出来ます。手から生み出された作品の中には植物のような形をあらわしているものや、円などを描き、花火や、気球のような風景に見える物などもありました。こちらの三角形はとても柔らかくやさしく、まるで作家さんの人柄を表しているようでした。

「民話の世界シリーズ」は国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』に連載されていた作品等のうち49点を展示しました。民博（国立民族学博物館）に勤めていた時に見聞きした物語から、作家さんのイメージにより絵を想像し、主に白黒にて表現をしています。画からも物語が想像できるような作品でした。

この展覧会では田主先生の人柄の通り、皆さんがとても笑顔でほっこりとした感じに帰って行くのがとても印象的な展覧会でした。また来年も『田主誠の世界』を楽しみにしています。

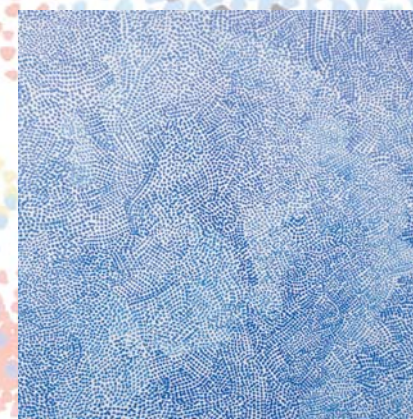
## ▼ 三角形シリーズ



◆ とにかくやろうよ



◆ のんびりいこうよ



◆ 想 2



◆ きっといいことがある



◆ 雨の装い



◆ おはなしおはなし

## ▼ 民話の世界シリーズ



◆ 動物たちの話し方



◆ ワニになった男



◆ 太陽の動きを遅くさせたマウイ



◆ ふたりの男の嫁あらい



◆ カラスはなぜ黒い



◆ 太陽の動きを遅くさせたマウイ